

ジュニア京都
観光大使の

GoGo

体験レポート

京都で学ぼうサイエンス

参加大使 荒堀功三さん(御所南小学校6年)/高谷智響さん(桃山小学校6年)/藤井芽生さん(太秦中学校1年)/森根菜絵さん(陵ヶ岡小学校6年)

今年、京都大学iPS細胞研究所長の山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。これまで自然科学分野でノーベル賞を受賞した16名のうち、10名が京都市にゆかりがあるということを知っていますか？

1949年に日本で初めてノーベル賞を受賞した湯川秀樹さんも京都市立京極小学校の卒業生です。このように実は京都では昔からなじみの深いサイエンス。

今回、そのサイエンスについて子どもたちに



知ってほしいと、京都産業大学で「京都で学ぼうサイエンス」と題した連続講座が始まりました。初回講座「湯川先生

の世界:中間子からヒッグス粒子まで」の講師は湯川さんの教え子でもある曾我見郁夫教授。その講座に4名のジュニア京都観光大使が参加しました。

まずは湯川さんの生い立ちからお話が始まりました。子どものころおじいさんから習った漢籍の素読(書物の意味・内容を考えることなくただ文字だけを音読すること)が後の人生に大きな影響を与えたこと、実はスポーツマンだったことなど、知られざるエピソードが紹介されました。

そして、湯川さんが研究された中間子のお話へ。原子は電子と原子核に分けられますが、原子核の中でなぜ陽子と中性子は離れずギューと小さく固まっているのでしょうか。

湯川さんはそれらを互いに結合させる中間子の存在を予想しました。多くの研究者の努力の結

果、その中間子が宇宙線の観測によって発見されたのです。

物理の世界

のお話は、大使たちにも難しいものではありませんでしたが、一つ一つの地道な研究が現在の科学技術の発展につながっていることを知ることができました。

「京都で学ぼうサイエンス」の講座では今後、雲と雪の実験や放射線の飛行雲の観察、湯川さんと同じくノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊さんと南部陽一郎さんの研究のお話など、奥深いサイエンスの世界を探ることができます。皆さんもぜひご参加ください。



●1月19日,2月23日, 3月2日(各土) 下京区丹波口駅

京都で学ぼうサイエンス

小学4年生以上が対象の分かりやすいサイエンス入門です。

A 京都産業大学壬生校地むすびわざ館
B 14:00~15:30 C 小4~6, 中1, 保※小は要保同伴 / 30組60名 D 無料 E FAX, はがき, E-mail(先着順)。希望講座名・開催日, 氏名(本人・保護者), 学校名・学年, 〒住所, 電話番号を明記。メールの場合件名に「京都で学ぼうサイエンス」と入力。申込締切(1/19)1/14(月・祝), (2/23)2/18(月), (3/2)2/25(月) F 京都産業大学連携推進室(〒603-8555京都市北区上賀茂本山) G 705-2952 H 705-1960 I renkei-suishin-jim@star.kyoto-su.ac.jp